



個人と社会の Well Being

校長 鈴木 康史

ここ数年の中では過ごしやすい6月でしたが、台風6号に続き7号8号と接近し、猛暑とは別の形で気候変動を感じることでなりました。6月3日につきましては、前日に休校と判断させていただき、家庭のご協力をいただいたことを感謝いたします。

この6月は、水泳学習が始まると共に、延期されていた3年の遠足、6年日光修学旅行などが実施されました。ボランティアでご協力いただいた皆様、またPTA会費よりボランティアの同行費用のご協力をいただいたことに感謝いたします。

日光修学旅行は、雨や行きの渋滞などで予定の変更もありましたが、土曜の東照宮の混雑などにもめげず、しっかり見学をすることができました。専用スプレーなどを用意しましたが熊と出会うこともなく、宿の中庭に現れた鹿の親子の姿に癒やされた子もいました。



近年、世界中で「Well-being (ウェルビーイング: 身体的・精神的・社会的に良好で幸福な状態)」という言葉が急速に注目され、教育現場にも深く導入されるようになっていきます。単なる「経済的な豊かさ (GDP)」だけでは、人々の本当の幸せや社会の持続可能性を測れなくなったという危機感があります。複雑化と精神的ストレスの多い社会の中、「持続可能な社会」や持続可能な経済指標への転換がもてめられているところでは、精神的に安定し、自己肯定感や他者への信頼感 (Well-being) が高い状態のほうが、子どもの探究心や思考力、創造性が発揮されやすいとされてきています。単にテストで良い点数を取るためではなく、変化の激しい時代を主体的に生き抜く力を育てるための教育になってきています。

体験を通す、自分の考えを互いに交流する、解のない問題を見だし、取り組んでいくことになります。夏は個々の体験を深めることもできる時期です。また、猛暑が予想される中で地球環境についても感じ、考え、実感できるときです。この4か月を振り返るとともに、自分の関心事を探究していく時間にもしていきましょう。

Well Being

学びにかかわる人みんなが心も身体もそして社会的にも健やかに過ごせる環境を

OECDが提示する『ラーニング・コンパス (学びの羅針盤) 2030』では、教育の最終的な目的地 (ゴール) そのものが「個人の、そして社会全体の Well-being」と位置づけられました。

ユネスコ
スクール
14の指導
目標より

◆◆◆ 7月30日は、国際フレンドシップ・デー

8月12日は、国際青少年デー ◆◆◆

ユネスコスクール推奨の「三菱アジア子ども絵日記フェスタ」や横浜市が行っているエコ活、GreenExpo に向けての作品募集やイベントなどに、奮って参加しましょう。